

頭書

窈哲言傳

全

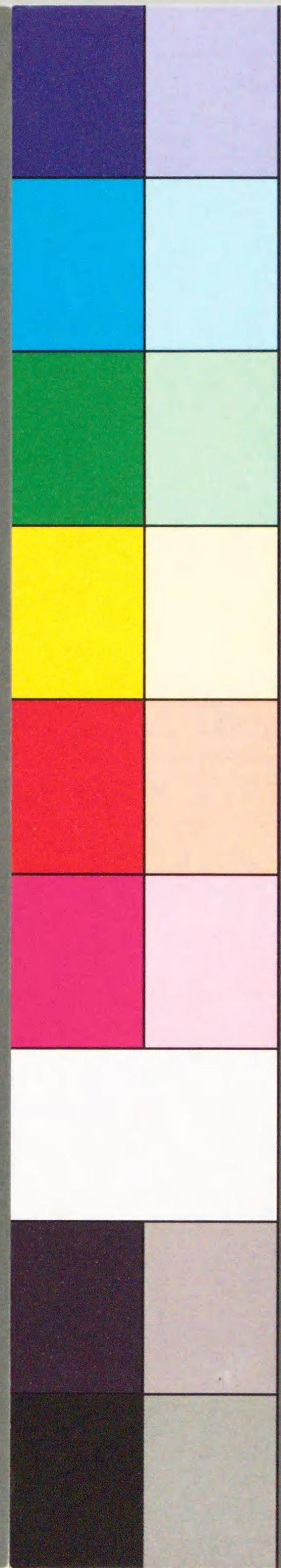
138
87

東 京 圖 書 館			
和書門	經書類	三七函	四九架
		八七號	一冊

inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



△天謫不憚

天者歡喜天又天
理可通今已此書
演說天尊之真監
難奉窺雖然不憚
本誓功能述言義
也

△盲曹地蝮

謙退之辞也

△陰陽二道

陀羅尼集經言夫
婦二身令相抱立

菩提留支法言

聖天菩薩應迹利
生故現夫婦相抱
貞 歡喜抄上卷

窺誓傳

天に謫を憚りて自己志涉智短なりとを願ふ也。
一やうてんさみのけ誓功能と畏りて演説せん。
まうくく盲曹の地蝮ふおそむをばうんふくうづ
しとくやまのく。讚嘆——筆談杖きてまうく系。
くくをわゆるや。南無大慈大聖欽命双身天主は。
和光利物の表示隨形存現の祈相。わんやう二道の
根源あり。万像あり。より生長せり。金胎两部共教を
まうく諸佛あり。降誕——まうくへり。男
天のれ。大自在天志あるが。大日如来。最後やう
へんのあり。女天のこをらまうく。まうく乃慈

し書いもんせんかりやハ
うかいあめせけふる
回座よかえそふむりまうく
一紙ありとをまうくをさあり
天のかそれといひ秘密寂上經
と業出せり心敬身業すへまうくの

言聖天菩薩得名者大日如來垂迹故名大聖施作欲樂喜悅故名歡喜光明自在故稱天王

△大自在天

菩提流支法言有四辟云毘那夜迦主六辟或四辟各有持物四葉座荷葉坐踏金山戴七寶冠右手執斧上手團盤尤下左手上手捧種々瓔珞白繖朝霞象

頭四辟輔依輩成一切願望尊也
无畏軌言大自在天之子三千人有其尤千五百以毘那夜迦王為第一行諸惡友其眷屬十五万七千有右千五百以扇夜迦善持天為第一行一切善友其眷屬十七万八千有故篤信者得成就不信者得障尋也

△十一面

前後左右以十一

化十一めん乃聖容三十二の妙相とあるす。ひ
とくみ。是。急。照。深。重。乃。号。新。り。か。ま。は。念。怒。れ。と
ら。と。き。ん。ド。孫。よ。と。も。う。ら。ま。の。お。ほ。ひ。よ。急。照。心
に。任。一。な。ま。を。宣。授。若。与。系。乃。さ。う。つ。た。あ。く。を
や。功。徳。言。た。事。ハ。て。ん。よ。と。わ。く。利。益。の。後。一。地。よ。い
ほ。し。て。十。方。の。周。遍。一。云。が。う。と。す。を。も。福。徳
財。智。武。勇。敬。愛。稱。う。ひ。よ。怒。ト。あ。を。と。施。一。
降。魔。網。伏。除。病。延。命。此。の。ぞ。も。に。あ。さ。う。の。是。を
成。ト。貪。乏。乃。族。め。う。か。う。と。唱。ま。ば。豊。稔。乃。欽
花。よ。誇。り。卑。賤。の。輩。信心。と。り。守。に。高。貴。殊。官
斑。よ。参。系。詩。系。後。法。乃。好。士。ハ。あ。う。ひ。よ。伎。能。を

ふ。は。し。し。れ。その。名。代。あ。ら。る。大。小。野。密。れ。字。侶
か。の。く。法。楽。と。い。せ。ば。の。の。と。悉。地。早。成。せ。り。尚
来。よ。久。史。定。し。て。善。提。通。場。に。引。導。せ。ん。と。誓。し
は。す。た。た。ま。道。俗。貴。族。多。れ。う。皈。敬。せ。む。や。竊
以。よ。億。億。生。死。乃。中。に。う。け。ご。う。た。人。身。を。う。け。
切。切。流。轉。乃。あ。の。ご。ん。あ。ひ。ご。と。密。教。に。あ。ひ。
さ。い。さ。い。よ。一。ま。う。て。ん。の。法。よ。あ。ひ。さ。て。ま。う。ふ。
機。縁。の。い。さ。り。あ。ら。う。く。し。盲。聾。乃。浮。木。優。曇。花
と。み。一。に。い。さ。う。守。乃。同。感。涙。ほ。し。ら。に。禁
一。か。こ。一
そ。を。く。大。聖。欽。在。男。天。は。性。古。如。来。法。力

面成十波羅蜜功
德頂上佛面佛果
相也所謂左邊三
面作瞋怒相此即
戒忍進度顯三波
羅蜜也當前三面
作慈悲相此即禪
惠方便顯三波羅
蜜也右邊三面白
牙上出相也此即
願力智度顯三波
羅蜜也當後二面
作嗔怒良此顯檀
波羅蜜也頂上現
佛面表昔已成佛
事此即正法如來

乃大士有り。花翼國土に於るハ。毘盧舍那
佛と現レ。成爲不覺乃道と成るハ。香集
世衆にレしてハ。大虚空爲レ示レ。福智を
爲レ。聖位有り。一ラ悪魔降伏。無福智乃
爲レ。大聖敬表天也。わりの也。多し。さうか
とに。種よい。故命毘盧舍那佛一心法界
無上尊事理圓融任虚空示現大聖歡喜天
云い海やうてんと變てハ。神力自在十方に
みられたまひ。佛法僧と衛護レ。無福れりの
ハ。益とめりし。大慈悲とを以て。さうせうと

像也

△三十三身

普門品所說辟支
佛等三十三身也
不出其名不追加
機品品狀相現繪
不漏方機一切有
情衆爲度也
△外忿怒形
八大童子秘要法
品言金剛手言一
切衆生意願不同
也或順或逆也是
故如來現慈怒身
隨作利益解云諸
佛大悲愍衆生故
即於順者以順而

利したまふ。時に使咒法經曰。所爲神力自在遍
歷諸方奉衛三寶。以大慈悲利益衆生。如之
有り。さう。無畏軌言此聖尊自在天摩訶毘
盧舍那如來爲饒益無福衆生。推化示現此
像云。含光軌。男天也。さう。多し。さうか
化。男と有り。無畏軌。男也。大目と有り。男
天乃地。男と有り。記せらる。さう。こ乃介志
さう。もんか海。さう。さう。すに邊。さう
は。女天ハ。西方乃能化有り。淨妙國土
ハ。無量壽佛と有り。成佛乃力と現
レ。妙觀察智。さう。難深五濁。せ

觀若於逆者以逆而制也一佛住念怒三昧時十方諸佛同共入念瞋三昧文

△福德敗智

羅素心咒經言若有眾生設以誦曲為求富貴名利等得聞此咒彼諸眾生生生々處々成就智惠福聚之香大富貴之祈依此天車術法上卷定惠軌人師安然書等見

△武勇

靈驗要術法言惡人惡心人去見使咒法經曰菩提解支譯寂護眾生隨其所願皆滿足同經隱現隨念見

△愛敬

愛敬軌言其所獻飲食等之物必可食始得氣力增成之事一切貴人男女愛念文秘密成就儀軌文又番法決中卷愛敬祈念之事悉見

くいぬいぬ一してハ。觀世音菩薩と示し。ふゆせう。欲度乃聖位する。一。無慙乃惡人。と。利せんがため。大慈大悲乃門戸。と。いづく。と。いんさ女天と。う。と。せ。ゆ。ふ。されば。理趣釋經曰。得自性清淨。如來者。是觀自在。在王如來異名。則此佛名無量壽佛。若於淨妙佛國土。現成佛身。住雜染五濁世界。為觀自在。王菩薩。云。含光軌。は。女天ハ。十一面。と。い。ん。と。ん。と。ん。と。り。或經曰。我身常在極樂世界。我名大自在。在王如來とありきり。大聖二天乃御下地略く乃。と。い。づ。く。化導と。わ。く。し。つ。乃。と。う。ふ

大聖歡喜天王ハ。天上天下乃。魔群と退治し。二世乃利益とやむ。一。世々。若し。ゆ。せう。と。化度。一。たま。の。あ。ん。含光軌。は。經。と。い。ひ。さ。て。い。づ。く。我為化度。隨類眾生。普賢寂後。現毘那夜迦。と。い。づ。く。あり。ま。さ。た。と。う。と。一。聖天乃利生。方便ハ。自餘の佛神。と。超。る。一。二世。此。地。と。う。る。半。け。き。に。く。い。ま。一。そ。も。人。間。の。栄。耀。と。い。ひ。世。上。は。快。運。命。と。い。ひ。諸神。と。い。ふ。の。と。も。て。ま。つ。と。も。と。も。形。礼。と。う。を。う。け。乃。ゆ。へ。求。兆。據。者。丹。誠。屢。空。一。結。佛。と。わ。く。と。い。ふ。て。ま。つ。と。も。と。も。宿。執。に。う。る。け。ゆ。

△降魔調伏

式法决委見經

言縱令魔王未其

方便終不可得諸

鬼神去此善人十

由旬外

△除病延命

番法决下卷 谷抄

委見善無畏軌

言歸依供養之者

必得無量福壽云

△高貴官班

聖天記見安然

△脚

發端之辭是正本

文也

△往古如來

愛敬軌言令成大

日世尊身 菩提

留支法言聖天菩

薩應迹利生故現

夫婦相抱良

△花翼國土

密嚴國土大日法

身之淨刹也

△香集世界

虛空藏法界宮也

則菩薩之淨土也

△濟衆生苦惱

形求鉢言此天大

悲如是濟衆生苦

惱最後方便也又

無宿乃吾者素懷之門一也。海之

首と低牽伐合。勇心乃之房一也。朝日行

久と賽乃はく先を弊と費にあり。物に

いま。あのうんごうんごうん。る成むえん乃悪

人ときてさせうぬつて。多とへて。賢父は愚子

と懸にわひかす。いとんや。有礙乃さう

るやに。とぬきとや。寤を咽王乃ごとし。勢上

ふかぬく。くさうせんをさくさす。る多。諸

佛諸神餘天等み。いづつて。とてさくさく

勢とさうとを。聖天等と移んど。多てま

流せば。即時も忠地とわしつ。みかすんぞく

と事。此文使咒法經曰若人為諸天所捨念

我則時現悉地皆滿足云。云うてんみハ。微妙

乃法あるにあり。肆ふ大をんをたこらんを乃

まづげ天も飯をれど。影を成すか。大名決人

いふとあふに。必と宿をとつて。各々面々

乃形むむ。かす。考とことと聖天乃別形も

出り得るふ。此文使咒法經曰我有微妙法

世間甚希有衆生受持者皆與衆滿足と

給ふ。安き。諸佛菩薩乃群類と後と。とか

あ乃高れかうべんたり。諸神權現のさ由せうと

化と。寧け天乃苦巧にわしつ。や。十方諸佛乃

以番法决式法决
術法秘咒以衆生
邪願終入一實妙
道以二門邪途顯
善門心源故也
△行きて

結前生後之詞也
上任經軌之旨男
女二天顯本地已
下尊本誓功能述
△利生方便

與利安生之心也
方便者醫師之應
病如與藥因衆生
機說法方便
△丹誠屢空

赤面息絶祈義也
△賽

至心信言
△捧物
弊帛清淨捧物也
△悉地
梵語此成就云宿
望叶義也 愛敬

圓滿軌言 一行何
關梨送
無不現當二世悉
地圓滿亦十方諸
佛菩薩及金剛威

德護世八天恒立
持咒人前後左右
守護不繫捨離見
得悉地僧真台兩

利益亦あつらんやかまつらん。あの天代供養も
る。一々の法律乃冥助とがうあらんといふ
ら。こ乃る法をさうすべし。一々一天を。償
嘆いすつといふもあまの。結佛法神代威光
とす。あまのいふら。肉裏乃御修法とす。ト見
その外大法秘法し。ゆさう強みさうり。あまの
け天と供養する。立壇行念乃取。あつらひ像
と安置せしむ。さふよらう。密地をやく。後海と。
あまのゆへ。無畏軌言若不知此法者於餘尊
法難得成就とんくさうり。このゆへ。吾我常
てんと恭敬供養とす。まの海とん。誓願殊

勝乃明之使咒法經曰我行頃世法一世示希
有事我能隨其願少のべし。將て天代常

任乃不貸とる。さう。さうてん乃本宮ハ七金山
乃随一鬼那夜迦山とまうく。まうくハ鷄羅山

をさう。号せらる。このさうりハ。北方が乾もあ
まのりま。安座し。さう。神力自在三界中
におぬく。ま切。さハめは。ふとわらさう

みらんせん乃せん。十方に分別し。終も。とめ密嚴
花露乃とる。終分後同居乃却み。置く塵芥
みらんせん乃せん。まう。まう。まう。まう

沙事恒沙界に。現トたも。まう。まう。まう。まう

宗多中仁和寺成
典僧正伊養法給
印明時聖天舌打
給小野仁海僧正
聖天對面委細卷
談給

△大名入達宿望
靈術法言至心供
養聖尊自然得象
兵馬兵牛車等兵
軍隨諸國王以為
所從如鐵輪王云
又城邑殿宅鎮也
又得田畠庄園五
穀七穀等上味富
貴

△御修法
於禁裏每歲正月
八日十四日迄一
七日時法務被行
天長六年弘法大
師準大唐内道場
宮中建真言院兼
和元年ヨリ始行
△七金山
妙高山其高十六
万踰繕那也次七
金山純金所成也
七金山者一者名
持雙山二者持軸
山三擔木山四者
善見山五者馬耳

碧洛ふわをいひ下へ黄龍子入せり番くに
和登一もより事時としてとどまる事
る。されど使咒法經曰我於三界中神力得
自在窮劫不能盡を説く事。聖天とて
けしとてよりふりハ至極をかりてあり。内信
をのりて記ぐゆへなり。世間ハ聖賢乃二つ
聖とてより。空上とてよりにあひかき。出
民とてより。いそげ實とてはわたり
と。大自在天と号してハ智惠自在なり
りゆへハ。智東辨と稱する人。け天と信と
一。又雙弟毘那夜迦とてハ。時は敬愛

と成りたまふゆへハ。切あいまをとあひびり
る。のるをわびる。六辭天とてハ。五穀成
就とてより。一切去民百姓未びる
け天と念ずべし。かくれとてハ。乃名号不同憐慈
軌ハハ。け外經軌ハハ。教多乃兩名おせり。
具ハハ。書一が。あつハ荒神とてハ。て
三ハ不善神とて退治したまふ。け三神ハ人乃
胎内ハ入る。画とてす。ひるをのり。ら
くハ。大清淨經ハ。説く。聖天荒神ハ一辨乃
りハ。成蓮抄ハ。ハ。をてハ。少徳の先極
ハ。反ハ荒神なり。や。あつハ。か

たり。釈教を華法とくくしたるは。七日惱
 乱わりて。税法中級一多と。十室形法經
 小説と申。惣として草人の大毒るる事へ。本
 草綱目小審に注せり。柀子梨子乃二種へ。
 意熱の門と。こもは草書と守しやうてんさん
 と信仰して。法内經みうまひもてまうらる
 けのひま。あうまうしはく移人。と家におめ
 ての。に思又幸法一生涯食すべくはけ二つ
 へ。やうてんふかうし守。諸律たまへみりて
 ても。百日穢るなり。よも集定紀みんへと
 利。法佛乃和みかりんての。九十日乃けくもふ

〇首
 〇首
 〇首

至。則帝釈菩薩集經よはく。鶏を六畜乃内
 るれむ。鶏卵やてと。とくすべくは。官と
 嗽ものへ一團糞多た多くひり。五奉や
 け六。梵烟經曰大蒜。華葱。韭葱。蘭葱。興渠
 け大經有り。らものともとの。お度乃華
 有り。日域よへ。聖蒜とらへて。五奉とすと
 け一統あり。又茴香とらへて。一統あり。則和
 名集よく。蓮のともと。訓あり。毒説をらひ
 て二種とも。食すべく守かりさうけさか
 どん。みまひり。のまらひ五奉につらて。古
 五種。ちうくせらるる事有り。五奉經よんてり。

さへいごをいぬるす六種とせしむる。又幸ハ元そくえんぐらしくせうふふら。ゆつる草まりゆわぐゆへ。こせは食するを乃の事教ふらうまして。そのうへ。罪とらゆるり。然あま。於鄙とくま。官僧社人など。もつら食し。沐浴して。どろろと。乃をとゆ。交用とせらる。こを取らうして。佛神よびよ。須臾と法性乃果位と天下地乃に宮に。遷居。移遷したまふゆへ。行部聞給ふべし。にをわら守。てをとらうせし。乃への道は同産とすべし。守。大にたしむ。

△生死可忌

兩親七々日伯父

伯母兄三七日第

從弟十二日合火

七日産母七々日

夫三七日合火七日

△沐浴

以空十歳禁足之

内一月一日巡堂

序沐浴

△供團

大日經并同疏第

七委述

菩提留支軌 善

無畏軌 使咒法

一。大酒とあのみどくす。行者を禁酒なり。生死乃火といむべし。女人の月たさる。まのり。折る。折。はてまらるべし。と。婦を犯し。らん。は沐浴すべし。乃者。不。婦。り。熱。して。新。清。よ。扱。し。凡。を。ま。ぐ。垢。あり。し。る。ら。し。か。ら。ざ。し。乃。者。長。髪。と。あ。し。ゆ。へ。ま。ら。は。一。月。一。日。乃。入。堂。れ。は。ぬ。ご。に。沐浴。と。し。ま。れ。ど。も。唯。今。よ。つ。り。毎。日。洗。身。し。ま。り。菓。を。食。し。ふ。冷。あ。と。む。よ。ゆ。へ。垢。穢。乃。不。淨。を。修。人。し。ハ。異。ち。ら。ん。ど。も。天。法。淨。身。と。あ。る。が。中。に。

軌言未來行者持
如來禁戒不行雜
慾一百日內必成
就法

十善戒

十善戒者源出首
輪王所製難禁佛
出世不改名言授
此戒

△緣日

十六日金剛峯日
大言日也

天乃孫日と云うん。月乃二日四日八日十日
十七日十九日廿二日毎日云々。則金
對智經日祝ふ由。いふ不空軌弘法大師
乃御釈使咒法經の祝皆孫日異けゆ。聖
天孫日あり。少くもわらわら。其思惟ありて。
勝尾寺乃一やうてん。月の十六日と孫日
とささ免あり。さささささささささささ
経祝とゆつとあり。ささささ。天供修り此
日とりひ。息災増益教愛よ月日あり。こ
このさよあり。源あり。いかにいかに
日とせり。さささ。聖天光呪ま言と御文

究善傳

十八

ふさまやりの。雙刃天主ハ大日孫海此垂跡
なるがゆへなり。け神呪ハ。兩軀如來乃心中
秘密呪とらひ。いかにいかに。万億を教此法佛如
來乃密言なり。い真云と稱持するものハ。
善哉乃善哉わりの。いかにいかに。いかに
ハ。世ののいんと。成身。海とら。いかに。如來
不空此大平。法王誓中乃明珠うらうらゆへ
なり。さささ。儀軌言。此光明真言。
万億無数諸佛如來心中秘密呪誦一返為
誦万億無量大乘經百億無量陀羅尼百
億無量法門三世一切諸佛誦此光明真

〇首

究善傳

〇一七

△正覺
於正覺壇花其室
及等正覺此佛說
理趣經三界主三
界三密三寶等也
花其室正覺爲得果
是即身成佛也

言速成菩提云三世乃云よぶのこのあや
りされらうと。正覺と成ドたまふ。一さ
あもぢらん。げらんごんと誦して。よをぶの
うらうら。まじ。お軌言誦持此真言一切天
神地祇皆悉所歡喜悅可とんくまふ。あ
ゆふしやうでん別して。納受まうく。念あ
らるあらんよ。らうらとせん。ゆらにいた
ぐいこくを。まんぞくありらん。たとひ悪
非おゆく。身らとを。うく守と加うふに
らり。如意安全うして。とまふ。よらんひ乃
ゆゆとひら。舎宅清淨にして。やとがら

あむり。使咒法經曰有念皆攝遂隨有咸滿
足設衆惡來侵我悉能加護我使如其意
住居皆吉慶舎宅悉清寧や。呪とゆふ約あ
後強乃好士。名ととく。先んとおまら。あ
天とこのむらう。卑賤乃とをが。友佐よ。
あづらりたきとおまら。けとこのむらう。
聖天の到壇止らり。お玉らりめして。佐と
任せとをら。貧乏乃族世ふくらりめづし
さ。室とりて。お家考う。七室在處とのぞ
むものへげ天とこのむらう。せよまうせか
ふ。殊室撰て。とくくまふ。そくせむ。

ありとら乃純又使咒法經曰有求名遷館
 我使國王召有求世異寶使世積珍利家
 豐足七珍世皆取希有也純くつ會ふ世の人
 いろよめぞて美に純若乃終ぐひがこもるるの
 へまぐくくをけ天とこのびぐりすもや
 此のぞみまいつらん。純自始よまらるり。
 夫婦相するりあへべ。むくふよげきとこの
 じべーし和吹し睦しからんといふなり。
 男女美名ゆらり。唯てつら。海凍氷激て
 草木氷凍つて終て。會場とかがるにしくか
 らす。詳文端使咒法經曰有求色美者發

大藏分

影宛然至云又曰男女得美名夫妻順和
 合やう祝ふやふ。まき金谷乃ら舟の河たよ香
 美乃花とりてあそひ。南橋乃秋の空に明月
 とあひ一偈わりのな道遠け一とあひむもの
 るはけき成念とく。毎のしとあひあよ
 ちて宛をわたり。はあき。はよふあ
 のしとあひあよものならりつうけ天と念
 すべー。みるまんぞくせすもつるなり。
 奴婢あのかくひがりとするてのそみさるひ
 るるく。懐妊乃女人のしけき念
 ぞぶし平産せすやのりる。りあ自をとせ

△除惡心惡心嫉妬 式法谷抄見

一めんどうりの。明又とつとすに。使咒法
曰逍遙自快樂宛然無取之。又曰恒欲
相娛樂無不完満足奴婢極成群美女孕
律逸遊行得自在。説く身より。除病延
命福徳と称ぶもの。別てい天と。恭敬供
養とすすべし。一切乃犯人。おらびりあく
乃疾病腫物瘡痛ふに。つとふまで。とく
多。中服せずとらり。壽命長遠に
て福のけり。ささみ。つとんの誓。影なり。
す。ハ熱念咒咀乃る。や。と。と。んし
多。よ。さん。を。ま。や。り。ん。使咒法經曰莫須

△普提

圓滿軌言來世必
得阿耨菩提道速
登佛陀究竟位故
此天法人間希有
文 肝心集言誠
心奉仕聖天菩薩
決定引入菩提道
場云

△聖天具書

多羅尼律經 使
咒法經三本 留支
釋弘法大 大明咒
師請來 末度成造
賊經 抄載タリ

佛説金色迦那鉢
底陀羅尼經 金剛
智譯

○首

言遠近神狂及疥癩疾毒衆不利云 又曰
壽命悉長遠福祿自遷至也 從今身。然
天頌言惡念咒咀衆怨悉退散と。ん。た
了。悔。し。に。な。警。傍。斗。也。ト。て。い。天。と。は。い。よ
伝。ず。る。もの。ハ。称。う。ハ。ず。と。を。貪。る。ふ。り。あ。る。と
か。つ。次。その。ゆ。へ。無。能。測。量。者。や。説。く。身。より。
就中是一生乃利益の。と。ふ。り。さ。う。す。百。年。遠
窮。寂。後。條。終。の。み。さ。り。ハ。男。天。ハ。無。救。の。眷。属
とい。ま。う。く。一。回。魔。乃。群。黨。と。破。壊。し。て。其。提
道。場。子。引。導。し。て。身。よ。し。天。王。天。蓋。と。拵。
女。天。ハ。百。寶。花。臺。と。擎。て。九。お。乃。淨。刹。よ。む

尾三事

毘那夜經 毘那
 夜迦經 蘇悉地
 經 寶樓閣經
 菩提塲經 妙辟
 經 華蔓經 宿
 驢經 蕪波呼童
 子經 團渾梓經
 權現金色迦那
 鉢底九目天法 菩
 提留 菩提留支法
 支 愛敬法一卷 金剛
 聖歡喜天貳法一
 卷 般若惹羯 肝要
 集 金剛 不空三藏
 所譯軌一卷 善
 無畏軌一卷 歸依

久へぬまふり。我則命終變定生極樂也。然る
 ぶゆへふい天よ。皈依しぬくすつ。陀文酒泉
 記經引言誠心奉仕聖天菩薩變定引導
 菩提塲場や見つり。大日經疏曰從此一門
 得入法界門云かく左難難於ると。學者
 智ししんども名利乃碩学をもむ。必無
 慈然乃ゆへみ。漢りす。ある。今通せざるゆ
 へ秘密といひて。こも成況す秘密を事おもに
 うるべし。女華切能と秘密して。疾術せ
 ざんどもを家いうての利益とるうざんや。る
 がゆへま失儀男女信ずべきたあらず。あふか

念誦法 云 定
 惠均等軌一卷 不
 譯 金剛童子儀軌
 一卷 不空 大日
 經疏 大日經義
 釋 大自在天法
 則儀軌一卷 不空
 權現歡喜法一卷
 毘那耶迦法
 毘那耶迦儀軌
 太元儀軌 愛敬
 圓滿軌 一行十一
 面軌 金跢夜叉
 軌 祕密成就軌
 大聖歡喜天儀
 軌一卷 靈驗要

中に稍美とばる。たつよきれを疾の法師づり。ハ
 懐恍中り。その慈記とつけしもの。い。色よ。儀
 増して念ずる。けゆへ利益とがうめず。
 了はひらふ。ふひんのい。る。恐。て。天不
 信乃業の現世よ。災難あり一生れとる。は。
 に魔乃さるりあり。ゆへ。多智智定をんずる
 人。色に。して。性生成佛より。に魔れ
 さい。智度福分五ふ。たり。内他記自在天
 魔とらふ。一切如来。法佛菩薩。諸天。諸
 神。あ。い。降伏したまふ。り。か
 一。聖天。一の。あ。の。ゆへ。相伏神力

術法三卷 會光
 軌一卷 大師在
 唐軌 憬慈記一
 卷 使咒法開子
 火布惹 大抄
 肝心抄 慈記
 歎抄 都記 九
 目提婆羅惹 酒
 泉記 歡喜抄二
 卷 隨間記 相
 兼秘決 式法決
 十一 形求抄
 禪林記 慈覺傳
 他門抄 智證 番法
 決三卷 智證大
 師記 谷抄 聖

天記一卷 成連大
 聖天教行次第一
 卷 安然 聖寶藏神
 儀軌
 定賢法務秘傳
 西酉實運秘傳
 皇抄 三寶院
 勝憲僧正傳 仁
 和寺宮心鈔 成
 典僧正記 山王
 院記 性信大御
 室御傳 埋趣房
 寂圓記 般若寺
 僧王次第
 右頭書 具書台
 密兩宗學侶群見

乃七の抄あり。こゝに八十元七の抄あり。此の抄乃教
 同し。てゝいふ。あつ。に。本の系乃教
 廣博況ふ。具書本を教多あり。おぼや
 一。而。り見。安。れ。分。袂。に。を。見。侍。人。退。居。せん
 と。聲。僅。書。を。一。と。り。つ。ま。万。の。あ。る。利。是。と。か
 り。あ。べ。ま。れ。む。り。か。か。ぶ。ぐ。ゆ。へ。甲。乙。款。と。合。て
 流。と。押。け。一。事。と。書。集。も。つ。ま。上。求。ま。抄。下
 一冊。自家。藤。字。乃。傳。侶。然。之。昧。耶。の。罷。あ。ん
 少。さ。さ。あ。て。は。言。敷。す。べ。い。か。ひ。も。り。け。ら。か

り。あり。能。思。謂。諸。佛。善。薩。明。王。法。天。新。神。傳
 是。み。か。衆。生。と。利。益。一。善。惡。と。え。と。し。た。ま。ふ
 一。そ。誓。形。あり。出家。は。佛。乃。金。言。結。す。れ。は。誓
 巨。益。と。積。談。一。衆。生。と。化。度。す。る。と。そ。大。利
 あり。甚。深。乃。切。速。と。て。も。勸。さ。れ。ど。法。を。あり。
 能。了。け。書。と。難。せ。と。天。乃。法。ん。と。そ。び。と。し。
 聖。天。の。降。守。は。行者。に。了。そ。あ。ま。の。秘。法。傳。り
 乃。時。あ。や。ま。り。あ。り。あ。ま。を。あ。ら。ま。ら。に。難。あ
 了。道。借。男。女。伝。す。あ。り。の。よ。い。う。く。崇。と。す
 一。そ。あ。へ。ま。も。ま。こ。た。り。の。あ。ま。あ。ま。を。た。ら。す
 その。能。又。よ。と。く。を。引。お。せ。り。有。難。乃

布有成故南山傳
昌記之

軍ハハ抄と拜見一。聖天をもよ級依一た
て海つて。二世に米粒と約。十指爪掌と合頭
真役めして。恭敬礼物とるまへべ一。當に大
慈大聖歡花雙為天と自他法界平等利
益 敬白

寛文十一 辛 曆八月十六日

勝尾寺瀧谷大木食以空謹撰

夫籍撰傳ハ本文のこゝに我妙音山親言事申奥大木食
大僧正以空等ハ金剛院若神ハ兜院不れあて十ヶ年
禁足修禪乃ハも由に西蕃有也先ハ浪華ハ書林是と
情々捧ふちりのをせよむろむとハハも早にお湯つり
出だも懲滅せんしを思ひて彫本とて一納く華書此書板
とりんあふおれあて毎三閱之小後補の冠注跋もに傳
寫の張中月々又本書のこゝに印かなと用いざれば海保
もいふ月らんもいふえりしす故よ今具觀詰を別紙にてけ
言をとくを共々好く 天をもの巨益をあかす押願山の
結守 大聖歡花天ハ則本文小ハハ内弘法大師の德を
大和國子持寺上總阿闍梨ハ惠小秘平とさづけむし

珍上人のあつちまらるる如く祀す。のこさるる
いさゝか感得の事者。うごごし由儀も。いさゝか
其はまじ。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
るまじ。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
密を今又。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
則右の。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
人小ね。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
除瓦。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
海作。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
持ふ。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
下。あつちまらるる如く祀す。のこさるる

娘妹。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
さう。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
大事。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
育。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
以。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
一。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
中。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
又。あつちまらるる如く祀す。のこさるる
何。あつちまらるる如く祀す。のこさるる

城列山
観音寺藏板

三十七

寛文十一辛亥年八月 原版

明治十七年九月廿八日 再版御届

今 年十月廿五日刻 成

定價金

故人

撰者

以空等引金剛

京都府平民

土郊本性

山城國乙訓郡大山崎莊
百拾一番地觀音寺住職

原版人并二
再版出版人

伊豫國松山河原町四十六番地

仙波隆信

山城國乙訓郡向日町三十五番戶

横山新助

上梓施主

製本弘通所

